
語らぬもの

愛上文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

語らぬもの

【Nコード】

N2627Q

【作者名】

愛上文

【あらすじ】

突然現れた「かかと」、ねがいを叶える神様、ぬいぐるみ、名もなき木、そして人間の「声」。
語らぬものの「声」を収録した、短編連作小説。

かかと

かかとは突然現れた。

かかとは何も言わずにぼくの足元に現れた。

ぼくはかかたと触れてみた。かかとは何も言わなかった。

かかとはただぼくの足元にいるだけだった。

かかとは日に日に大きくなっていった。

ぼくはかかとをみんなに見せた。

みんなはかかとを興味深く見つめた。指でつついたりやさしくさすったりした。いたくないの、とよく聞かれるが、ぼくは少しもいたくなかった。かかとは何も言わなかった。

ぼくはかかたと話してみようとした。

「ねえ、かかと。どうして何も言わないの」

かかとは何も言わなかった。

ぼくはかかたと話し続けた。うれしかったことや、かなしかったこと。腹が立ったこと、何もできなかったこと。どうしようもないこと、とりとめのないこと。

そうしているうちに、ぼくはかかたにならなんでも話せると思った。ぼくがなんでも話せる相手はかかたとが初めてであった。別れたばかりの彼女にも、母にも、親友にも話せないことはたくさんあった。

ぼくは不思議だった。かかたには話せてしまうのだ。なんでも。

かかたが何も言わないとしても。

かかたと話しているうちに、ぼくはかかとの声を聞きたいと思った。

「ねえ、かかと。どうして何も言わないの」

かかとは黙ったままだ。

ぼくはだんだん腹が立っていた。どうしてかかとは何も言わないん

だ。

前からぼくの中で何かがうごめいていた。ついにその何かがかか
に襲いかかった。

ぼくはかかを知っている限りのことばで罵った。そうして、か
かとを殴ったり爪を立てたりして、かかを傷つけた。かかから血
が出た。ぼくと同じ赤い血だった。

かかとは何も言わなかった。

かかとは初めて見たときよりも大きくなっていた。誰かに切られた
ような傷跡がある。そこから赤い血が少し流れている。ぼくと同じ
赤い血だった。ぼくと、同じ。

そうして、ぼくは思った。

かかとは、何も言えなかったのではないか

かかとは何も言わなかった。

かかとはただぼくの足元にあった。

かかとは何か言いかけたようにも見えたが、ぼくにはそれが聞こえ
なかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2627q/>

語らぬもの

2011年1月26日09時29分発行